

学校医が活用する学校欠席者情報収集システム

島根県出雲市立今市小学校 校医
島根県出雲医師会学校医部会 理事 杉浦 弘明

「学校欠席者情報収集システム」(以下 システム)が導入されている学校では朝礼後、クラス毎の欠席情報をもとに養護の先生(あるいは教頭先生はじめ学校の先生)方はPCでシステムへの入力をなさっています。

同じ頃、全国の15657名の先生方もシステムに入力をしていらっしゃいます。この貴重な先生方の入力をおよそ毎回5分と計算すると、全国ではのべ1300時間の入力時間に相当します。たくさんの先生方のご協力

により、全学校の34.8%の児童生徒の健康管理が瞬時にできる仕組みになりました。この結果、自校のみならず地域全体の児童生徒の健康に役立っています。

この結果を用いて特にインフルエンザ流行時期には自校や近隣での流行の様子を当日中に把握し、児童生徒・各家庭への保健指導の資料に利用したり、学校行事や他校との交流行事をどのように実施するか判断材料としてご利用いただいていると思います。

今季のインフルエンザをふりかえって

2011年から2012年にかけて全国的にA香港型インフルエンザが大流行しました。島根県でも1月から出雲市の学校で徐々に学級閉鎖がはじまりました。一週間程度で各クラスでの流行が終息したと思ったら、次いで別のクラス、別の学校、別の市町村と流行がはじまりやがて収まるという状況が3学期の期間内続き、結果として多くの生徒が罹患しました。この様子を私は学校医としてシステムを通じて毎日確認していました。2、3日の短い潜伏期間で発症し、高熱を含めた強い全身症状を呈し、次々と感染を繰り返すウイルス性疾患は他になく、改めてインフルエンザという疾患の脅威を感じました。

インフルエンザが流行している最中には、様々な手続きや連絡で忙殺されるために、一度にインフルエンザが流行して過ぎ去ってくれたらいいのと思われることもあるかもしれません。でもそんなことはありません。なぜなら、一度に多くの生徒が罹患するとパニックが生じるからです。もし、インフルエンザの患者が一度に医療機関に押し寄せて、医療機関が混乱したら、どうなるでしょうか。診察までの待ち時間も長くなるでしょうし、十分な診療を受けられず、軽症で済む場

合も重症化することがあります。数年前のように薬品や、検査診断キットが欠品することさえあり得ます。

しかし、今シーズンはインフルエンザの患者さんが、医療機関へ殺到されることはありませんでした。一度に多くの患者が発生するのではなく、徐々に広がっていくという感じでした。このように、集団感染の急激な増加という事態を回避できたのはシステムの成果のうちの一つだと思います。なぜならば、システムによって早い段階でインフルエンザの流行状況を察知することができ、それぞれの学校で対策をはじめることができるからです。中学校区内で、あるいは市内で1人患者が発生したとき、まだ自校ではインフルエンザでの欠席者はいなくても、発熱や呼吸器症状でお休みしている生徒がいれば、そのクラスの様子を注意してみることができますし、担任の先生を通じて予防指導をしっかりとすることができます。インフルエンザは、ワクチンで発症そのものを完全に抑え込むことができない以上、「情報」を駆使して、子どもたちが一度に罹患しないように流行を遷延化させたことにより、子どもたちに十分な回復の時間的余裕を与えることにつながっているのです。

「学校医のアンケート調査」の結果

システムを学校医がどのように利用しているか、2012年1月に出雲市医師会の学校医(93校)に、利用

状況についてのアンケート調査を実施しました。

回答方法はウェブ入力もしくはファックスとしました。

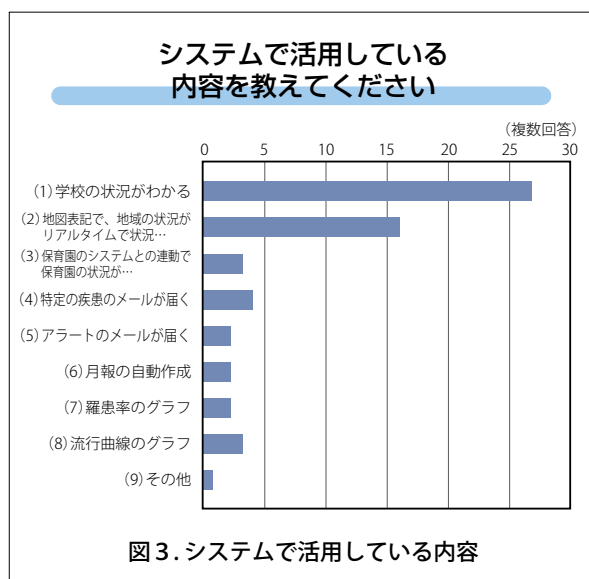
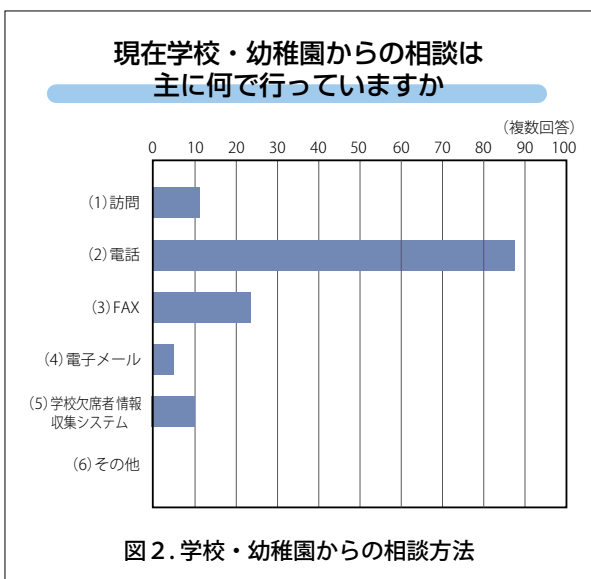
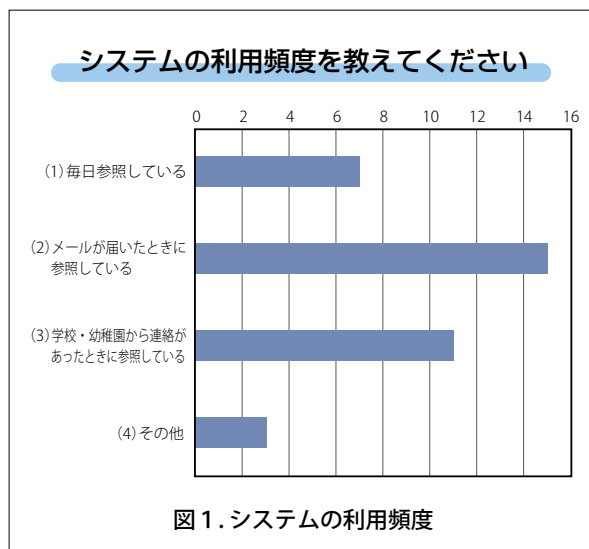
回答は85校からあり回答率は78.0%でした。診療科目は(1)内科・小児科が55%、(2)外科が6%、(3)耳鼻科が39%です。インターネット利用率は86.0%でした。

システムを利用する学校医は31.2%でした。システム利用する学校医のうち使用頻度を図1に示します。毎日必ずチェックする学校医もあれば、必要などきのみ利用している学校医がいました。

システムを学校への指導助言に活用しているのは58.6%でした。システムを用いた場合、学校との情報共有・しやすさについて「はい」との回答は69.0%、「いいえ」10.3%「わからない」20.7%でした。この回答には、ご自身ではPCでデータを直接見なくても養護の先生が作成されファックスされた集計表を参考にしていらっしゃる方も含まれます。

この結果、システムが学校医への情報として有効であることが示されました。学校・幼稚園からの相談方法を図2に示すように、最終的な学級閉鎖の実施を含めて相談はあくまでも双方向性伝達手段である電話で決められています。

今後、学校医側のシステムの利用率向上対策として、担当校のみならず地域全体の感染症蔓延状況を診療用のコンピューターに連携して、日常的に表示する仕組みづくりが必要です。



30分トレーニング
DVD付

日本学校保健会推薦

CPR・AED学習キット

ミニアンニー

MiniAnne®



helping save lives

あなたにしかできないことがあります。

15,000円(税別)以上のご購入につき 送料無料 実施中!

www.CPR-AED.jp

検 索





学校の授業で..